営農技術情報

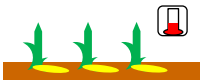
発行　令和５年４月 26 日
第３号
たいせつ農業協同組合
営農部　農産販売課
本所　営農センター　57-2357
支所　営農センター　87-4111

◆安定しない天候が続き外気温が低い為、発芽までの日数が例年より長い事例が散見されますが、日中に日照が出ると急激にハウス内の気温が上がりヤケ等の被害の可能性が高まります。徹底した温度管理・灌水管理により、健苗育成に努めましょう。

（「営農技術情報　第２号」と合わせてご確認ください。）

日付	4月27日(木)	4月28日(金)	4月29日(土)	4月30日(日)	5月1日(月)	5月2日(火)
天気	晴時々曇	曇時々晴	曇り	曇一時雨	曇一時雨	曇時々晴
気温(℃)	11 4	13 2	16 3	15 5	15 4	15 2
降水確率(%)	40	30	40	60	50	30

≪1.5葉期～移植までの管理ポイント≫

育苗期間	1.5 葉期～3.0 葉期	3.0 葉期～移植
適　　温	20～25℃	18～20℃
換気温度	20℃以上 晴天時には外気に慣らす	
温度測定	葉先近く 	
灌水のポイント	・早朝、葉先に水滴がなくなったとき ・日中、葉身の展開が悪くなったとき	

Check

□温度計は生育状況に合わせて図のように設置しているか。

□過度の灌水は立枯病や各種病害が発生しやすくなりますので、一回の灌水量は 500～1,000mℓ/箱を目安に実施しているか。

□ゆめぴりかは 2.5 葉期以降、初生葉や 1 葉が黄化していたら追肥を行い、栄養向上を図る。

☆育苗期間の病害と対策

◎急激な温度変化や発根不良によって病害の発生が多くなるので注意しましょう。

病原菌の種類	病状と特徴、見分け方	耕種的な防除対策
赤カビ (フザリウム菌)	・籾を中心に白～淡紅色のカビ発生 ・地際部、根が枯死し、生育不良 ・萎凋、枯死し籾や根が紅色になる	・過湿状態を避ける ・**夜間保温に努める(10℃以下で赤カビ、ムレ苗の発生が多くなる)** ・高温管理を避け徒長させない ・発根促進に努める ・軽度の白カビは、土壌の乾燥で蔓延を防止する。 ・適正播種量を守る ・翌年に向けては、土壌を適正な pH へ調整し、排水対策を講じる。
ムレ苗 (ピシウム菌	・急激に葉が巻き針状に萎凋、枯死 ・発生はｽﾎﾟｯﾄ状、ｶﾋﾞは見られない ・地際部は水浸状褐変腐敗	
白カビ (リゾープス菌)	・床土表土、籾層に白色のカビ発生 ・蔓延すると発芽、発育不良となり根は短く、根数も少ない	

病害名	防除時期	処理方法	薬剤名	希釈倍率	使用量	使用回数
苗立枯病 フザリウム菌 ピシウム菌	播種時又は発芽後	土壌灌注	タチガレエースM液剤	500～1000 倍	ポット　300 mℓ/箱 マット　500 mℓ/箱	1

※タチガレエースM液剤は使用濃度、使用量が多いと一時生育抑制を起こします。